

ウクライナ出身 キツイラさんによる 令和四年度第一回国際理解教育講座開催！



十月十二日(水)放課後、ウクライナのテレビ出身で由良町在住のロクソリヤーナ・キツイラさんを講師に招き、国際理解教育講座を開催しました。ウクライナの文化や暮らし、そしてロシアの軍事侵攻による現状、両国の歴史的背景など、キツイラさんは気丈に祖国への熱い思いを語ってくれました。生徒たち

は、実際に今起きている生々しい惨状に衝撃を受けながらも、熱心に耳を傾けていました。参加生徒による感想(一部抜粋)を紹介します。

一年六組 寺井 巴菜

今回、ロクソリヤーナ・キツイラさんの講演をお聞きし、たくさんのお話を学んだ。現在世界を震撼させるニュースだが、実際ウクライナ出身の方から現状を知ると、メディアで報じられている以上にウクライナが凄惨な状況である事を知った。空襲を受け、街が破壊され、数えきれない死傷者が出ている事に私は言葉を失った。

最も心に残っているのは、現在だけでなく昔からウクライナがロシアから侵攻を受けていた事だ。キツイラさんのお話を聞いて、ロシアの人々がウ

クライナ人の家に押し入り、食べ物があればすぐ奪っていったそう。ロシア人はウクライナ人を殺す目的だった。その事実をお聞きした時、私は恐怖を覚えた。

キツイラさんが言っていたように、ウクライナの現状を理解する事が平和への第一歩に繋がる。そして、日本も過去に戦争をしたことを忘れてはならない。一日でも早く平和を取り戻し、国際社会がより良くなることを強く願う。



一年六組 早田 朱里
最近日本では戦争の長期化で、ウクライナについてニュースで取り扱われることが少なくなってきたように感じる。しかしキツイラさんのご家族が撮影された動画を見て、ずっと命の危険を感じ



じながら生きている人がいると痛感した。そしてウクライナでは正気を保つために冗談を言い合うと知り、とても心が痛んだ。家族を失った犬の写真やミサイ

ル攻撃により水や電気が止まり
 連絡を取り合うことができない
 という現実が、私にはあまりに
 も想像以上で、意識の低さを実
 感した。また、「言語は文化をつ
 くる」という言葉の意味を最初
 は理解できなかったが、ロシア
 語が生活に紛れ込んでいるのが
 普通で、そこからすべて失うと
 いうのは非常に驚いた。また再
 び戦争が起らないように、次
 の世代に語り継いでいくことが
 大切だとキツイラさんはおっし
 やっていた。募金やネットでの
 正しい情報の拡散など私たちが
 できることをし、ウクライナへ
 の関心を持ち続けることが今後
 重要になってくると思った。

一年六組 川口 智也

今回の話を聞いて改めて戦争
 はいけないものだと感じた。ウ
 クライナの人が大切にしてきた
 景色、街、文化、「夢」という名
 の飛行機ムリアなど様々なもの
 が破壊されて、ウクライナの人
 たちはどれだけつらいかと思っ
 た。話の中で特に強く感じたこ
 とは、自国も他国も大切にする



というこ
 とだ。自
 国の言語
 を守るこ
 とや自国
 のことを
 知ってお
 くことが
 いざとい
 うとき国
 を守る力
 にもなる

という新しい考え方が広がった。
 また、各国の支援がありがたい
 とも話されていたので、他国を
 大切に思っただけで支援助することは必
 要で大切なのだと学んだ。ウク
 ライナができるだけ早く平和を
 取り戻してほしい。

二年四組 畑崎 沙月

母国がロシアの攻撃を受けて
 いて本当につらいのに頑張っ
 日本語で話してくれ、ウクライ
 ナへの思いが強く伝わってきま
 した。一番驚いたのは、ソビエ
 ト連邦時代にもウクライナは、
 ソビエト軍の人に家に入られて
 何か隠していないか探されたり、

働いても一握りの小麦しかもら
 えなかったりして、ウクラ
 イナがしんどいのは今だけでは
 なかったということです。ウク
 ライナはいろんな都市の建物が
 美しくて素敵な街並みだったの
 に、今の写真ではもう黒く焼け
 てボロボロになっていて、戦争
 の怖さを痛感しました。ウクラ
 イナに早く平和が戻ってきてほ
 しいです。そして私も何かでき
 ることをしたいと思います。



三年六組 出口 健太
 ウクライナとロシアは、使用
 言語が違って同じものに対する
 捉え方も違い、民族的にも価値
 観が異なっている。反発す
 る考えがあるのは当然だと思っ
 たし、対面的に統合したとして
 もそういったイデオロギーの違
 いでまた紛争が起るの避け
 られないだろうと感じた。こう
 いった出来
 事が二度と
 起こらない
 ように、次
 の世代へと
 教訓や考え
 方を伝えて
 いくことが
 大切だと思
 う。

